

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	animo筑後前津		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○訪問先施設評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携による専門的支援体制	理学療法士等の専門職を含めた多職種で支援を行うことで、多角的な視点からの評価・提案が可能となっている。 これにより、訪問先の状況に応じた具体的かつ実践的な支援につながっている。	事業所内研修や事例共有を通じて、評価・分析・提案の精度を高め、より実践的で現場に活かせる支援の提供を目指す。
2	関係機関との継続的なコミュニケーション体制	訪問時だけでなく、必要に応じて電話や送迎時等を活用し、訪問先施設や保護者と継続的に情報共有を行っている。 困りごとをタイムリーに把握し、迅速な対応につなげている点が強みである。	訪問時に加え、日常的な情報共有の機会を意図的に設けることで、関係機関との連携をより密にし、支援の一貫性を高める。
3	相談しやすい環境と柔軟な対応力	保護者や関係機関が気軽に相談できるよう、LINE等を活用した連絡体制を整えている。 また、支援前後の情報共有を丁寧に行うことで、安心感のある支援体制を構築している。	相談方法や連絡手段を明確化するとともに、保護者・関係機関双方にとって利用しやすい相談体制の構築を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	タイムリーな訪問対応の体制不足	訪問の必要性が生じた際に、迅速に対応できる体制が十分に整備されておらず、支援のタイミングに遅れが生じる可能性がある。	訪問の優先順位や対応フローを整理し、必要時に迅速な訪問が行える体制づくりを進める。
2	訪問頻度および関わりの継続性の不足	訪問回数に制限がある中で、継続的な関わりやフォロー体制の構築が十分ではなく、支援の定着に課題がある。	訪問後のフィードバックや追加支援の流れを明確化し、訪問が単発で終わらない継続的な支援体制を構築する。
3	連携内容の共有・蓄積の仕組み不足	訪問先で得られた情報や支援内容について、事業所内での共有や蓄積の仕組みが十分に整備されておらず、支援の再現性や質の安定に課題がある。	訪問内容や支援方針について記録フォーマットを整備し、事業所内での共有を徹底することで、支援の再現性と質の向上を図る。